

# 学園だより

温故  
創新

義務教育学校 八女市立

上陽北湊学園

JOYO-HOKUZEI compulsory education school

第4号 令和2年7月1日発行

文責 校長 牛島 俊哉

## 今年の重点目標

### 進んであいさつをする子どもの育成

#### 1. 現在の全体的な子どもたちの様子

5月25日に、学校が再開し5週間が経ちました。

5月末の最初の週は、子どもたちは緊張した様子でしたが、次第に打ち解けた雰囲気になってきました。6月末の現在、ほとんどの子どもたちが臨時休業前の調子を取りもどし元気に生活を送っています。しかし、天候のせいもあり、体調不良を訴える子どももいますので、引き続き子どもたちの健康に留意するとともに、熱中症への対策も考えていきます。

#### 2. 学校の新しい生活様式について

新型コロナウイルスへの対策は続けていく必要があります。東京都の状況などを見ると、気をゆるめてはいけなないと考えます。しかし、効果的な学習活動は、安全に配慮しながら取り入れていかなければなりません。

文部科学省より、「学校の新しい生活様式」という衛生管理マニュアルが出ています。そのマニュアルに沿いながら、「話し合い活動」「実験観察」「合唱」「群読」「調理」などの配慮すべき活動も、必要に応じて行っていきます。

#### 3. 令和2年度 学校の重点目標について

あいさつの言葉の由来を調べてみると、もともとはお坊さん同士が問答を繰り返すという学問的な意味があるようです。奥深い意味があるのだなと勉強になりました。

現在では主に、まわりの人に対して尊敬や親愛の気持ちを表す動作・言葉・文面などを意味します。そして、あいさつは、人と人とのコミュニケーションの大切な第一歩であり、学力向上やよりよい人間関係づくりの基盤となるものだと考えます。

そのような大切な意味をふまえた上で、本年度の上陽北湊学園の重点目標を「進んであいさつをする子どもの育成」としました。

まずは、「おはようございます」「こんにちは」などの態度が相手に伝わるようになってほしいと思います。その後は、あいさつの意味を考えながら、あいさつのレベルをどんどん上げていってほしいと考えています。

具体的には、下のような姿をめざしていきます。

- まわりの人を大切にしたいという心のもったあいさつをする。
- よい姿勢、適切な発声で、気持ちのよいあいさつをする。
- あいさつという枠を越えて、まわりの人たちとコミュニケーションをとりながら、共に学ぶ喜びを知り、「もっと学びたい」という意欲をもっている。

「進んであいさつ」をキーワードにしながら、一人一人、大きく成長してほしいと願っています。

## 7月は同和問題啓発強調月間です。

福岡県では、同和問題の早期解決を目指して、昭和56年度から毎年7月を「同和問題啓発強調月間」と定め、各種の啓発行事を実施し、差別をなくす取組を展開しています。

上陽北浜学園におきましても、7月10日（金）の授業参観で人権学習を実施するとともに、人権作文・人権ポスターなどの取組を行っていきます。

## 6月に実施した行事や学習について

右の写真は、救急救命講習の様子です。6月29日（月）に高等科と中等科で行いました。心肺蘇生法、AEDの使い方を学びました。

座るときに間隔をとり、密にならないように配慮しています。→



← 新型ウイルス感染防止対策の一つとして、全校集会などで、児童生徒が集まる際には、入り口や窓を開けるとともに、大型サーキュレーターを回して、外気を取り入れたり空気が循環したりするようにしています。

6月10日（水）に、1年生で、図書館オリエンテーションがありました。学校司書の濱田先生の話聞いて、本の借り方や返し方がわかりました。右の写真は、実際に図書館で本を借りているところです。感染に気をつけるために、透明シートを設置しています。→



上の活動の他にも、各学年独自の学習活動とともに、発育測定、交通安全教室、避難訓練、礼節実技などを行っています。これからも新型ウイルス感染防止に努めながら、学校行事や学習活動は、できるかぎり実施していきます。